

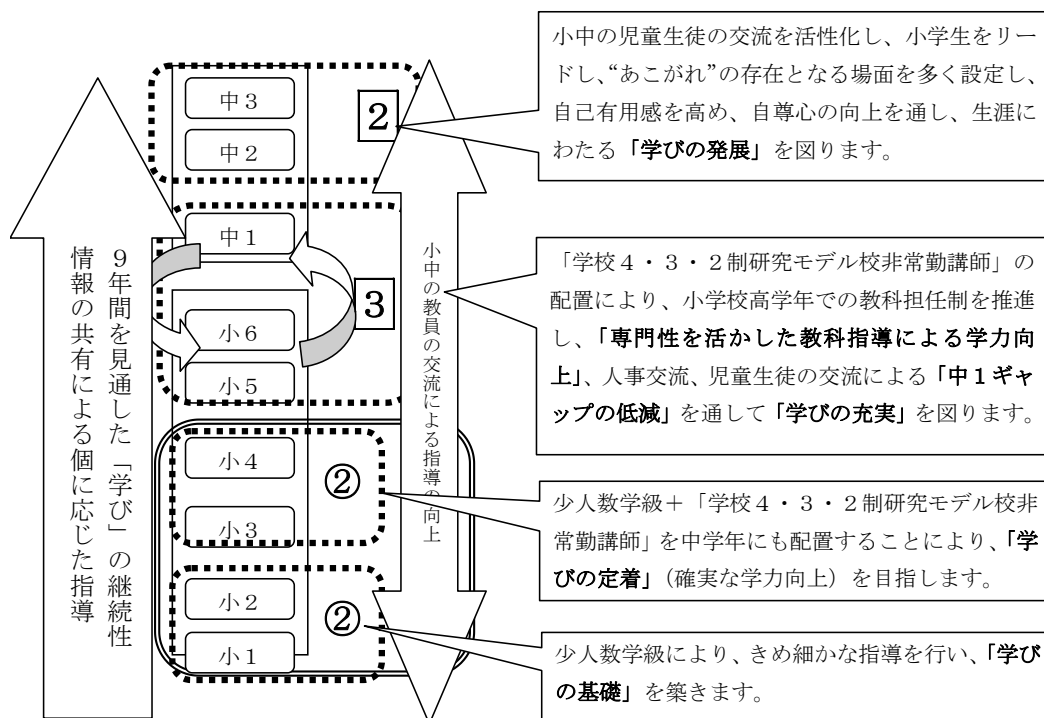
平成28年度 小中一貫教育（北本市学校4・3・2制）推進校「かば桜学園」についてのQ&A

Q1 小中一貫教育（北本市学校4・3・2制）とは何ですか？

我が国では、戦後「義務教育6・3制」が長く行われてまいりましたが、近年、いわゆる「中1ギャップ」による不登校児童・生徒の増加や「学力向上」等が学校教育現場の課題としてあがりました。その対策として、義務教育9年間を小学校6年間・中学校3年間を分けるのではなく、できるだけつながりを意識することで課題解決を図ろうとしたものです。

具体的には、今までの6・3の分け方ではなく、現代の子どもの発達段階に応じて、小学校1年～4年生までの「4」、小学校5・6年生と中1の「3」、そして義務教育の総仕上げとしての中2・中3の「2」をそれぞれの期間として、学力や豊かな人間性の育成を図っていこうとする取組です。小1～4までの4年間は、さらに前期2年間は義務教育課程への「スタート期」ととらえ、幼稚園、保育園などとの連携、いわゆる幼保小連携を充実させ、小3・小4では、学校生活での基礎確立期間として、「学びの基礎」の充実を図ります。早い段階で学習につまづいたり、学習意欲を喪失してしまいやすい中学校段階で、学校の授業以外では、まったく学習しない「No Study kids」を作らないことや児童が自ら課題を見つけ、学び続ける素養（意欲）を養っていくことが大切と考えます。さらに小5～中1までの「3」の期間では、心も身体も大きく成長するこの時期の変容を小学校・中学校が連続性をもって、豊かなところをはぐくむ教育や「学力向上」について取り組み「学びの充実」を図ります。

さらには義務教育の総仕上げである中2・中3の「2」の時期については、学んだことを活用して様々な行事のリーダーとして活躍したり、学習の発表の場を設けて「学びの発展」を目指したりしていきます。



**Q2 「かば桜学園」とは何ですか？**

Q1で御説明した「小中一貫教育（北本市学校4・3・2制）」は、北本市内の4つの中学校区でそれぞれの学区の特色を活かして取り組まれています。中でも、西中学校区である「西中」「石戸小」「栄小」の3校では、市内4中学校区の中でも、この取組に先がけとして、平成24年度より取り組んでまいりました。その際、3つの学校をまとめた「学園（学校）名」を決めて、まとまりをもって研究を進めよう！という意見が児童・生徒、職員の中からあがり、みんなで話し合った結果、この西中学校区にある国の天然記念物「蒲桜」を用いてはどうか、との意見が採用されました。小学校低学年からの取組ですので、「かば桜」と難しい読み方の部分はひらがなにしました。

**Q3 もう少し具体的にどのような取組をしているか教えてください。**

まず、児童生徒の活動（交流）について説明します、児童生徒は年間を通して、以下の表のような活動（交流）を行います。

活動の名称 実施回数や時期	活 動 内 容
ジョイントスクール さくらランチ  年3回（各学期1回） ※ランチは年1回	2校の小学校5・6年生が西中学校に登校し、授業を受けたりレクリエーションを中学生と一緒に楽しむ「中学校体験入学」です。授業も中学校教員が小学生を教えたり、小学校教員が教えたりするだけではなく、中学3年生が英語、数学、読み聞かせなどの講座を担当します。また小学生と中学生と一緒に自分たちで作ってきた「おにぎり」を昼食としてとる「さくらランチ」も行い、「中学校に親しむ」という目的達成に大きな成果をあげています。
あいさつ運動 各小学校1回ずつ	中学生が朝、登校前に小学校に行き、小学生と一緒に校門で「おはよう！」とあいさつをします。中学生は「小学生にしっかりした姿を見せよう！」とお兄さん、お姉さんらしさを発揮していて、とても教育効果のある取組です。
部活動体験 夏休みに1回	小学生が夏休みに中学校に来て、半日、中学校の部活動を体験します。時間を分け2つの部活動を体験できるようにし、小学生にとって「中学校生活で1番興味があり、かつ不安もある」部活動についての理解を深めます。
リトルティーチャー 夏休み中に数回	夏休みに実施される小学校の授業（石戸小：ステップアップ教室、栄小：学習支援教室）に、中学生がお手伝いとして、採点したり、かんたんな勉強を教えたりします。
歌声交流会 2学期に各小学校 1回ずつ	2学期、市内音楽会の時期に、中学生が小学校に行き、合唱を披露しました。そして小学生も合唱や合奏演奏を披露しました。参観した保護者からも、小学生から中学生の発達段階に応じた合唱・演奏に成長を感じ、とても感動したとの声をいただきました。
バスケットボール練習 陸上練習 年に数回	1学期の市内球技大会に向けて、中学生（バスケットボール部員）が小学校に行き、一緒にバスケットボールの練習を行い、技術指導を行います。また2学期には、秋に行われる市内体育大会に向けて、一緒に走ったりしながらアドバイスを送ったりします。
小中合同アート 年1回（3学期）	3学期に、学園名の桜にちなんだ合同アートを作成します。桜の木をデザインしたメッセージ掲示板に、小学生は「6年生への旅立ちに向けてのメッセージ」を、中学生は「新入生に西中学校の良さを伝えるメッセージ」をそれぞれ桜の花びらの形の紙に書き、貼ります。中学校の入学式では、その3本の桜の木が掲示されます。

次に教職員の取組について説明します。

教職員は、「ぐんぐん学力向上部」「さわやか生徒指導部」「のびのび交流広報部」の3つに分かれ、児童生徒の取組を計画したり、アンケートを実施するなどして効果の検証を行ったりしています。それぞれの部会について、もう少し詳しく説明します。

### (1) ぐんぐん学力向上部

児童生徒の学力の状況を分析し、「かば桜学園」の児童生徒の課題として①基礎・基本の確実な定着②表現力の向上の2つをあげました。

①基礎基本の定着に向けては、まず「かば桜学園学習チェックシート」を作成しました。これは「種まき（小1・2）」、「芽生え（小3・4）」、「開花（小5～中1）」、「実り（中2・3）」に分けた各発達段階ごとに着実に身につけさせたい国語、算数・数学、理科の学習内容をまとめ、家庭で習得の度合いをチェックできるようにしたものです。小中学校の教員が、話し合いながら問題を作っていく中で、互いの学習内容、状況を確認でき、9年間の学びの連続性を考えるよい機会となりました。今年度（平成28年度）は、さらに社会の確かめ問題の作成にも取り組んでいます。

また②表現力の向上については、グループ学習や話し合い活動を小中共通しての取組を通しての課題克服を目指しています。

さらにぐんぐん学力向上部会では、学習に集中できるユニバーサルデザイン化に向けて、チョークの色、教室環境の整備などについても話し合っています。

### (2) さわやか生徒指導部

この部会では、さらに「道徳」「特別活動」「規律」の3部門に分かれ研究を進めています。

「道徳」では、小中学校で、共通して重要と思われる内容を年間指導計画に位置付け、着実に実行することで9年間を通しての道徳的実践力の向上を目指します。

「特別活動」では、学級会の進め方を3校で統一して取り組むことで、児童生徒の表現力の向上を目指すとともに中学校進学後に児童生徒が“ギャップ”を感じないように配慮しています。

「規律」では、たとえば“名前を呼ばれたら「はい」と返事をする”や“時と場面にあった言葉づかいをする”、“時間を守る”などの学校生活における基本的なきまりについて、小中共同「授業の約束」として、この分野でも9年間の連続性を意識した指導育成を行っています。

### (3) のびのび交流広報部

この部会では、ジョイントスクールなどの小学生と中学生の交流についての企画を行ったり、交流の様子について写真や児童生徒の感想をまとめ、通信にして地域、保護者等に配布したり校内に掲示します。このことで活動の理解を深めたり、児童生徒が自分の活動を振り返ったりすることを推進します。

またアンケートを実施し、成果と課題を明確にし、次年度の取組の改善を図ることもしています。